

事業概要

松江市健康福祉部障害者福祉課

松江市障害者自立支援協議会機能強化事業
～ 障害者雇用促進を目指した体制強化及び事例検証・課題の抽出～

事業目的

松江市は障害福祉計画において、障害者の一般就労への移行を推進することとしており、推進体制の中心となる松江市障害者自立支援協議会の機能強化が不可欠である。

松江市障害者自立支援協議会（就労支援部会）を有機的に機能させるために、平成 18 年度に組織した松江市障害者雇用ネットワーク委員会の実働部隊として「ワーキングチーム」を立ち上げ（松江障害者就業・生活支援センターと共同で取り組む）障害福祉計画を推進するための提言等を行う。

併せて地域の実態調査や課題の把握・共有化、就労支援に向けた環境整備を進めることにより、一般就労に向けた支援強化・円滑化を図ることを目的とする。

事業概要

松江市障害者雇用ネットワーク委員会のワーキングチーム立ち上げ

障害者雇用に関する課題を現場レベルで解決する方法を模索するために、福祉・教育・雇用に携わる現場レベルの人たちのネットワーク化を図った。その手段として、松江市障害者雇用ネットワーク委員会と連動する、「ワーキングチーム」を組織し、個別具体的な事例に対する検証、課題の把握を行った。構成メンバーは概ね次のとおり。

- ・ 島根県中小企業団体中央会 ・ 島根労働局、松江公共職業安定所
- ・ 島根県（障害者福祉課、労働政策課、特別支援教育室）
- ・ 松江市（障害者福祉課）・市内福祉事業所、養護学校
- ・ 市内民間企業 他

ワーキングチーム検討会経過

第 1 回 平成 19 年 10 月 11 日(木) 於：松江市保健福祉総合センター

第 2 回 平成 19 年 12 月 13 日(木) 於：まるべリー松江 2F 交流室

第 3 回 平成 20 年 2 月 5 日(火) 於：松江市保健福祉総合センター

第 4 回 平成 20 年 3 月 5 日(木) 於：まるべリー松江 2F 交流室

報告会 平成 20 年 3 月 14 日(金) 於：くにびきメッセ小ホール

この他に、平成 19 年 10 月、11 月、12 月、平成 20 年 2 月に各 1 回、ワーキングチーム中心メンバー少人数での検討会を行っている。

利用者実態調査

「ワーキングチーム」の活動をベースとして、福祉事業所等と連携を取りながら、就労を希望する障害者の状況を調査し、地域の実態・課題の把握、就労支援に向けた環境整備を図るため、「共通のツール」をつくることを検討した。その際「企業のプロフィール票、

求職者のプロフィール票」や「ごうぎんチャレンジドまつえ」で使用した履歴書等をベースとして検討を行った。具体的な企業、利用者のプロフィール票に関しては使いながら更新をかけていく方法をとることにし、いくつかの事例で使用してみたものの、就労を希望する障害者の状況調査の実施にまでは至らなかった。

就労支援人材養成研修の開催

就労支援に向けた人材の養成・意識改革を図るため、3回のセミナーを開催した。

就労支援人材養成セミナー経過

第1回 平成19年10月11日(木)

「プロフィール票作成の目的と使い方」

[講師] 堀江 美里 氏 (就業・生活支援センターWEL S TOKYO)

第2回 平成20年2月5日(火)

「障害者が普通に暮らせるまちづくりと地域就労」

[講師] 細川 隆司 氏 ((社団)滋賀県社会就労事業振興センター)

第3回 平成20年3月14日(金)

「重度の障害者を企業の戦力に」

[講師] 四王天 正邦氏 (株)伊勢丹ソレイユ代表取締役社長)

シンポジウム「福祉だんだん談議しまね」の開催

「障害のある方が働く」ということについて、全国的な取り組みはもとより、特に地元での実践や先駆的な取り組みを通して障害者雇用、就労支援についての理解を深めると共に、参加者それぞれが、自分に出来ることを考える契機とするため、「福祉だんだん談議しまね」を企画、開催した。

期日：平成19年9月23日・24日

会場：くにびきメッセ(多目的ホール)

参加者数：156名(その他実行委員、ボランティア60名程度)

談議 「料理次第でこんなにおいしい自立支援法」

パネラー：岡崎隆司氏 鳥取県福祉保健部次長

児玉信広氏 島根県健康福祉部障害者福祉課
相談・就労支援グループ主幹

佐々木 勉氏 松江市健康福祉部障害者福祉課課長

小山 順氏 厚生労働省障害福祉課主査

コーディネーター：武田牧子氏 厚生労働省地域移行支援専門官

談議 「企業からの発言」

パネラー：古瀬 誠氏 株式会社山陰合同銀行頭取

森本信行氏 千代三洋工業株式会社相談役

コーディネーター：輪島 忍氏 日本経済団体連合会労政第一本部
雇用管理グループ長

談議 「どこでも人は働ける！」「どげでも人は働ける！」

パネラー：小倉広文氏 島根県西部障害者就業・生活支援センター
レント課長

且田久雄氏 株式会社ダックス四国代表取締役社長

長野敏宏氏 NPO法人ハート in ハートなんぐん市場理事

コーディネーター：武田牧子氏 厚生労働省地域移行支援専門官

談議 「障害児もいずれ社会人！！」

パネラー：阿部真理子氏 三原スイミー代表

宮本哲也氏 厚生労働省障害保険福祉部企画課課長補佐
明石則雄氏 都立石神井養護学校進路指導主任
コディネーター：堀江美里氏 就業・生活支援センターWEL S TOKYO
副センター長

基調講演「障害者の経済学」

講師：中島隆信氏 慶應義塾大学客員教授

対談「経済って面白い！」

中島隆信氏 慶應義塾大学客員教授

細川隆司氏 滋賀県社会就労事業進行センター
事業アドバイザー

障害者雇用に関心を持つ企業へのアプローチ研究

昨年度実施した障害者雇用に関する意向調査において障害者雇用に積極的であった企業を中心に40社程度の企業を選定し、平成19年11月中旬から平成20年2月にかけて33社の企業を訪問した。

ワーキングチームメンバーのうち訪問を希望する24名が、原則として2人以上で企業訪問を実施した。

事業結果

松江市障害者雇用ネットワーク委員会のワーキングチーム立ち上げ

福祉・教育・雇用に関わる様々な所属の現場レベルの人たちが結集し、様々なアイデアを出し合い事業を展開できたことで、障害者就労に関する共通認識をお互いに持つことができたと考えられる。普段関わるのが少ない企業関係者、福祉関係者、行政関係者、学校関係者が頻りに顔を合わせ交流したことで、様々な視点の考え方、提案に触れ、参加者それぞれに刺激的な活動となった。特に「障害者雇用・就労支援」について、企業や経済団体の方と共に考え、議論するという経験はこれまで稀で、今後の就労支援、ネットワーク構築の実践の場でも大いに生かされる内容であった。既に次年度以降の活動についても議論しており、今後企業や経済団体を含めた、より一層密なネットワークの構築が期待できる。

利用者実態調査

「共通のツール」としてのプロフィール票を検討し、一部で試行的に使用はしたものの、就労希望障害者の状況調査まで実施するには至らなかった。できつつある現場レベルのネットワークの中で、ベースとなるものを使用しながら検討を重ね、松江版のプロフィール票を作成・活用していきたい。

就労支援人材養成研修の開催

障害者が働くためには、本人が「何ができて何ができないか」という利用者のアセスメントの他に、企業が「どんな仕事で、どんな人材を求めているのか」という企業のアセスメントが必要であることから、企業のプロフィール票、求職者のプロフィール票を活用し、マッチングを図ることが重要であることや、就労支援を進めていく上での企業感覚（経営をする、ビジョンを立てるといったような事柄）が重要であること、重度の障害があっても、配慮や支援者の工夫、家庭での指導など環境次第で十分に働ける力があるということなど、3回に渡るセミナーを通して施設職員、教員などの支援者だけでなく、ご家族や企業の方に対しても「意識を変える」きっかけとなった。今後のセミナーの企画に関しては、いかに企業側（経営者、現場スタッフ）に興味を持ってもらえ参加してもらえるかをより具体的に検討していかなければならない。ワーキングチームの検討会では「企業を巻

き込むための方法」についての議論も展開しており、次年度以降の取り組みに活かしていけると思われる。

シンポジウム「福祉だんだん談議しまね」の開催

「障害のある方が働く」ということについて、全国的な取り組みはもとより、特に地元での実践や先駆的な取り組みを通して障害者雇用、就労支援についての理解を深めると共に、参加者それぞれが、自分に出来ることを考える契機となったと思われる。

障害者雇用に関心を持つ企業へのアプローチ研究

ワーキングチームメンバーが訪問活動を行った結果、33社のうち10社において実習受入が可能との回答を得ることができた。また、そのうちの3社において、実習の受入に向けた具体的な交渉が進展する、あるいは、実際に実習の受入まで進むといった進捗が見られた。さらに、実習について具体的な話が進んだ3社中の1社については平成20年度4月から実習を実施した障害者が雇用されるという成果があがっている。

障害者雇用に理解を示し、もう少し障害者雇用に関する情報を提供すれば、実習受け入れや就労につながりそうな企業も多数あった。しかし、マンパワーの不足で訪問した全ての企業をフォローしきれていないのが現状である。人的な余力があれば、成果はより拡大したと考えられる。

事業実施機関

受託事業者：社会福祉法人 桑友